

触媒としてのデザインによる地域活性化

—貴州での事例検証を踏まえて—

胡芸航

はじめに

グローバル化を背景にしながら、世界各国の経済発展・都市化が進むと同時に地域格差が深刻になる。利便性の高い都市圏はその周囲の地域から人的資源、経済資源を吸い込む一方、周辺地域は資源輸出型となり、労働力の喪失、地域生活環境の活気の喪失に直面し、地域の発展には勢いがなくなり、さらには衰退の傾向も見えてきた。

2014年5月に日本創生会議・人口減少問題検討分科会「ストップ少子化・地方元気戦略」によると、現在、日本では地方から大都市への若者の大量流出が起きており、1954年から2009年までの累積人口は約1147万人である¹。大量の若者の流出はすでに地方の発展に深刻な影響を及ぼしており、やがて消滅の危機を迎える地域すら少なくないと思われる。

一方、地方の人が外に移動する理由については、厚生労働省が2015年に行った「地方から都市部へ移住した人の理由」調査によると、一番の理由は「希望する仕事があったため」だそうである²。そこで、少子高齢化対策をはじめ、若者の東京への流出に歯止めをかけ、それぞれの地域で若い世代が充実した職業生活を営み、子どもを育て、次世代に豊かな暮らしをつないでいく「地方創生」に向けた施策を検討するために、日本は2014年11月に「将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する」の設置を決め、地方の課題解決に向けて取り組みを開始した。

グローバル化の進展と同時に、人間の欲求物質的なものから精神的なものへと移行したため、人間の価値観は多様化・高度化している。地域発展の展開にムラがあるのは、人々が地域を「捨てた」というよりも、都市に比べて地域に「仕事の間」だけでなく「生活の間」がないことに起因しているのではないだろうか。そのため、地方の「活性化」という考え方を模索する人が増えている。現在の窮状を変え、

地域を活性化させることで、人々にとって魅力的な地域となることを目指している。

「地域活性化」という言葉は、まちづくり、都市開発、観光まちづくりといったさまざまな概念を包含している。そして活性化という言葉は、塩見譲が『地域活性化と地域経営（シリーズ自治を創る）』の中で次のように定義している。

活性化とはそこに住む人びとが地域の資源を活用し、生きいきとした創造的な生活を営んでいる状態、またはそうした目標に向かって努力している状態を指すのであろう³。

彼によれば、地域活性化とは、地域にある資源を活用することによって、地域の価値を高めることだと理解することができる。

地域活性化の実現に向けては、さまざまな観点からの取り組みが見られる。

一部の人は地域産業の革新を通じて、経済発展を促進することを主張している。産業構造の高度化を目指し、地元の発展に適した先端産業を共に作り上げる。地域産業の軸をつくり、地域住民に豊かな生活環境の実現をもたらす。この方法で地域経済を発展させ、地域の居住生活環境を向上させる。

しかし、それらの方法は、多大な労力と資金が必要であり、地域だけの力で迅速に実現することは難しく、外部からの支援が必要である。現在、活性化に必要な地域の数が多く、外部からの支援は限られている。同時に、多数の産業開発の導入は、環境や地域文化に対して一定の矛盾を生じさせ、地域開発の特徴を欠くことになりかねない。むしろ、衰退する地方の窮状に対しては、外部資金による経済活性化というよりも、既存の環境をできるだけ破壊せずに持続的に運用できる新しい地域活性化のモデルを模索すべきではないだろうか。

20世紀、ヨーロッパ社会は産業革命の影響を受け、急激な都市発展を遂げた。21世紀になると、都市の発展は製造業から知識・情報へと圧倒的に変化していく。都市の魅力の低下を変えるため、都市文化・芸術の導入による都市の再構築を提案し、「文化と創造性を軸にした新しい都市政策」を生み出した。佐々木幸幸は、ヨーロッパにおける都市再生の事例について、次のように言及している。

欧州は早くから製造業の衰退と空洞化に苦しんだため、産業と文化の創造性に富む「創造都市」への取り組みが進展している。たとえば、

現代アート美術館によって都市再生を実現したスペインのビルバオが代表的だ。1997 年、都心の荒廃地にオープンしたビルバオ・グッゲンハイム美術館。米建築家フランク・ゲーリーの設計で、建物の表面はロケットや航空機に使用するチタニウムをふんだんに使い、造型的にも極めてユニークで、アート作品と評され一躍世界に名が知られた⁴。

前述の佐々木雅幸は、アートが「都市を創る」というコンセプトを実現することができると提案している。しかし、都市の活性化のためにアートが具体的にどのように作用すべきなのかという指針は示されていない。そこで筆者は、佐々木雅幸の提唱する概念に基づき、アートによる地域活性化を実現するための具体的なアプローチを模索していきたい。また、地域活性化におけるアートの役割は、地域活性化の触媒としてのデザインを通じて達成されることを検証したい。

地域の活性化は、何よりも人々の生活空間に対する理解に基づく場所の価値の再発見が必要である。そのためには、単に何か新しいモノや活動を持ち込むのではなく、また地域にすでにある資源をそのままに使うのでもなく、むしろ地域の人々自身の活動を促すような「触媒」として作用するものを導入することが重要であろう。この「触媒」という概念は、ウェイン・アトンとドン・ローガンが『アメリカの都市建築—都市の設計における触媒』(American Urban Architecture—Catalysts in the Design of Cities)の中で「都市の触媒」(Urban Catalysts)として提唱したものである。この本の中で、彼らは触媒の定義を次のように示している。

都市の触媒は、機能的な問題を解決したり、投資を創出したり、快適性を提供したりすることよりも大きな目標を持っている。触媒は街によって形作られる都市の要素であり、またそれは逆に街の文脈を形作りもする。その目的は、地域構造の持続的かつ漸進的な改革を促すことである。そして重要なのは、触媒は最終製品ではなく、その後の地域発展に刺激を与え、導いてくれる要素である⁵。(筆者訳)

上記の理論によれば、デザインは「触媒」になる可能性を持っている。デザインはコストの低さ、柔軟性の高さ、リスクコントロールのしやすさという特徴がある。地域の歴史・自然・文化資源を保全し

ながら、それらと組み合わせて新たな地域アイデンティティを創造し、地域の活性化に一連の連鎖反応を引き起こすことができると思われる。

本稿では、貴州省の実践例を通して、地域活性化の展開において、どのようなデザインの存在意義があるのか、またデザインと地域発展を結びつける事例を通して、デザインが地域活性化のためにどのようなインパクトを与えることができるかを探究する。さらに、デザインが地域活性化の触媒となりうるかどうかを検証していく。

そのため、本稿では、触媒概念、起源、特徴の紹介から、もともとは都市計画の概念である「触媒」をデザイン事例に適用することの意味について分析する。次に、デザインが地域に与える影響について、貴州での取組の検証を行い、デザインが貴州の地域活性化に与える影響を探る。最後に、そこから得られた知見のまとめ、今後取り組むべき課題についてまとめるということを検討したい。

第1章 触媒としてのデザイン

触媒(Catalyst)とは、化学反応を表す言葉である。他の物質と接触したときに、他の物質が分解または化合する化学反応を起こしながら、自身消耗しない物質である。一方、触媒作用とは、反応の際に触媒物質が他の被反応物質を触媒する度合いを指す。また、触媒物質の反応効率を引き起こしたり、促進したりするように調整することもできる。1835年にスウェーデンの化学者イェンス・ヤコブ・ベルセリウス(Jöns Jacob Berzelius)によって初めて作った造語である⁶。このような概念は、その後、化学以外の分野にも導入され、他の開発分野にも何らかの影響をもたらしている。

まず、「触媒」理論は、アメリカの都市計画に適用された。20世紀にはアメリカが経済成長を遂げ、ヨーロッパに代わって世界の科学技術文化の中心地となった。1939年に第二次世界大戦が勃発後、ヨーロッパのモダニズム芸術家たちが、当時ヨーロッパで流行していたデザイン理論を持ってアメリカに渡り、ヨーロッパの思想をアメリカの都市計画に適用しようと試みた。しかし、その実行の過程で、ヨーロッパのモダニズムデザインの理論をそのまま適用することは、アメリカの都市のアイデンティティを損ない続けた。ローカライズされたアメリカの都市のニーズに応えられないことに気づく人が増えてきた。その結果、現地の人々はそれまで使っていた都市計画の理論を見直し、アメリカの特徴を生かした都市計画の理論を積極的に模索するようになった。

20 世紀末になるとウェイン・アトンとドン・ローガンがアメリカ中西部の都市計画を分析し、都市計画やデザインの成功のプロセスは、「触媒」という化学的概念の化学反応に似ていることを発見している。良質の触媒効果を持つ小さな要素、例えば建築物、建築物の断片、建築物の複合体、または報告書やガイドラインなど。それらが、都市再生に勢いを与える。そこで、「触媒」理論をアメリカの都市計画設計に応用できると提案した。触媒理論から発展した「都市触媒」(Urban Catalysts)である⁷。

さらに、都市触媒の 8 つの特徴⁸を紹介している。要約すると、都市触媒の反応過程では、まず A という小さな要素を導入し、それが周囲の要素に変化を起こして新しい要素 B を形成し、新しい要素 B が形成されると周囲の環境に変化を起こし、それが都市に他の原初要素の間に相互作用を引き起こすことである。要素間の相互作用が大きくなると、より大規模な触媒が形成され、それがより広い都市空間に触媒作用を及ぼし、核分裂効果のように一連の連鎖反応を引き起こし、最終的に都市の地域特性の持続的発展を実現する。

都市触媒の特徴や役割の説明による。触媒の役割の焦点は、都市におけるさまざまな要素の関係性に柔軟に対応する必要があることだと理解することが必要である。矢萩喜徳郎は『触媒の身体をつくる』という本の中で、触媒と周囲のものとの関係について、次のように述べている。

触媒とは、二つの異なるものを作用させ、その結果として、二つの成分を変化させる力を持つもので、「触媒」という言葉こそが「関係性を誘引する」状況を連想させる、願つてもない言葉と考えたからである。「関係性を誘引する」ことに依って、人が、他者、あるいは物に対して向き合う時に、創造性を喚起させる重要な契機が生まれると推測できる⁹。

触媒には、地域の要素を融合せれる特徴があり、要素間の関係を誘導することで連鎖反応を引き起こす必要性もある。それに対して、デザインはその特徴を満たすものである。『現代デザイン事典：変容をつづけるデザインの諸相』ではデザインについて次のように定義している。

デザインはデザインされた世界と人との接点を、心理的、社会的、文化的、そして人間学的に最適化する行為である。この目的を果たす

上でデザインに求められるのは、あるがままの現実と、社会に顕在あるいは潜在する傾向、その双方を精確に認識することである。デザインは、孤立した分野ではなく、広範囲にわたる学問的、経済、環境、科学および芸術的洞察と知識、見解と生活の日常的体験を、モノとシステム、人工環境に組み込み統合することを意味している。デザインは諸分野を越境し、さまざまな活動を調整、変容させる一方、一つのプロジェクトに対する多様な見方を調停・統合する行為である¹⁰。

上記デザインの定義に基づく、デザインは触媒となるあらゆる可能性を持っていると推察される。異なる分類の要素を融合、調和、統合させる手段として用いることができる。

一方、社会の発展は、もはや都市にとどまらず、都市の施設に類似した周辺地域にも触媒による地域活性化の可能性を探している。しかし、アメリカの都市触媒理論で採用されている触媒物質は、建築によって都市を活性化させる事例が多い。地域にとって環境の変化だけでなく、地域の人々の内なる精神に変化を起こすことが重要である。そのため、地域の触媒となる物質には、その地域の活力や地域住民のアイデンティティを高める効果が求められる。

デザインとは、人間の頭の中にあるビジョンを視覚的に表現するだけでなく、特定の目的のために人間が作り出す一連の計画的な芸術活動のことでもある。そこで、都市触媒理論に基づいて、地域触媒としてのデザインが地域に与える影響をさらに探っていくことにする。

第 2 章 貴州の地域活性化の展開

第 1 節 貴州の地域活性化の傾向

近年、環境や文化への関心が高まり、デザインを通じて地域活性化に触れる手法が注目されている。日本では、戦後の都市化と工業化に伴い、都市周辺部の空洞化が徐々に進み、地域開発の衰退という窮状に陥っている。その社会問題を解決ために、日本には「地域主義¹¹」という概念が提起され始めた。そして 2000 年以降、地域活性化のためにアート活動を導入する試みが行われている。新潟県越後妻有の大地の芸術祭と瀬戸内海国際芸術祭が代表的なものである。これらのアート活動は、経済発展のみを目的とせず、地域の開発ニーズに合わせてデザインされており、世界中から大きな注目を集めている。

中国では、2013年に中国国家農業部が「美しい村（地域）」¹²の創設活動をスタートさせた。中国は地域発展に注目し、デザインと地域発展の融合を促し、地域活性化の新しいモデルを模索し始めている。そのなかでも、貴州は中国最後の貧困脱却の省として、そしてまた地域文化の独自性という点からも、どのような形で地域発展をはかるのかという課題はきわめて重要である。

中国南西部の内陸部に位置する貴州省は、総面積176,200平方キロメートルの中国を代表する多民族省である。このうち92.5%が山岳地帯で、地形は岩肌と洞窟が大半を占める特殊なカルスト地形である。これまで地理的な制約と交通の不便さから、貴州省は自然な文化の障壁を形成してきた。長い生産生活の中で、外の文化はなかなか触れられず、地域中の文化は保持された。現在、貴州省は保存状態の良い民族文化と複雑で変化に富んだ地理的環境のおかげで、ますます注目されるようになった。

2021年11月、貴州省自然資源部は『貴州特色のある地域振興スポットと紅色地域スポット建設に関する10カ条支援策』¹³を発表した。環境保護と伝統文化の継承を前提に、貴州の地域活性化に関連するアプローチを支援すると意思表示した¹⁴。これにより、地域の民族文化による地域活性化がブームとなっている。中国芸術研究院芸術人類学研究センターの方李莉は、文化の利用について次のように指摘している。

文化は間接的に生産力に影響を与えるだけでなく、直接的に生産力を形成することができる。現在の時代背景の下で、文化遺産はもはや博物館に展示されている死蔵ではなく、我々の未来を発展させ構築するための生きた資源である。政治、文化、経済の未来を築き、構築するための生きた資源なのだ¹⁵。（筆者訳）

地域文化を地域活性化に活用しようという動きを受けて、学者やデザイナーたちは、地域活性化の触媒としてデザインを取り入れる試みを始めている。地域の文化と地域発展のニーズとの相互作用を促進する。デザイン活動の開催を通じて、人々の交流を増やす。貴州地域の魅力を高め、地域活性化を推進する。次に貴州省の実際の事例を通して、触媒としてのデザインが地域に影響を与える役割を検討していきたい。

第2節 貴州の地域活性化事例

第1項 「貴州号」機体外見デザイン

背景紹介：

地域文化:「ろうけつ染め」は、中国の無形文化遺産の民間染色紡織技術である。溶かした蠟に蠟刀を浸して土布に図案を描き、藍に浸して何度も繰り返して染めた後、鍋に入れて水で煮て蠟を落とすと、土布は青地に白い花や白地に青い花など、さまざまな図案を見せてくれ、趣のあるものになる。2000年前にはすでに民間の染織品が文化財として発見されていた。かつて貴州の少数民族は交通不便な山間部に居住し、自給自足の農耕生活を送っていた。こうして中央平原からの技法が貴州に伝わった後、貴州の少数民族は、入手可能な材料に基づいてこの技法をローカルに変化させた。ろうけつ染めの原料は彼女たちによって生産され、模様は彼女たちの生活を記録するテキストとなり、技術は地元の女性たちが代々受け継いできた先祖伝来の伝統となった。その結果、貴州のろうけつ染め文化は、地域の歴史と文化の担い手となった。現在、貴州を訪れる観光客がお土産とする手工芸品に、ろうけつ染めの文化が用いられている。

地域発展ニーズ：2015年、現代貴州省会社は貴州省投資促進局の季泓局長に行ったインタビューで、季泓は次のように述べた。

貴州省の経済発展の主な原動力は企業誘致から来ている。2010年から2014年まで、貴州省は投資促進を通じて8000件以上のプロジェクトを導入し、契約投資総額は4兆元近く、実行額は2兆元近くに達し、貴州省の投資の継続的かつ急速な成長を強力に後押しした¹⁶。（筆者訳）

貴州の地域経済が企業誘致により急速に発展していると同時に、政府部門も貴州に対する宣伝活動に注目し始めている。企業誘致活動により、貴州省のイメージが省内外の各種メディアに頻繁に登場する機会が生まれ、貴州経済発展に役立っている。しかし、実際の企業誘致活動においては、貴州に対する外部から「天に三日の晴れ無し、地に三里の平地無し、人は三分の銀も無し」と評価されてきたように、貴州は貧しいという印象が定着している。その結果、貴州省の企業誘致宣伝は期待に及ばず、今は貴州省に対する外界の印象を変える必要がある。

プロジェクト概要：

2018年8月、貴州の経済発展・対外開放・文化交流を促進し、貴州のイメージの普及に貢献するため、貴州省文化観光局と中国南方航空が共同で交渉し、地域の広報活動の一環として飛行機「貴州号」を登場させた。飛行機の外装塗装デザインを担当したのは天馬メディア文化有限公司である。広州航空整備工事有限公司、南方貴州会社の航空整備工場、ベディック凌雲会社が共同でプロジェクトを担当し、中国および全世界初の「ろうけつ染めペインティング」のスタイルで塗装された航空機を制作した。機体はボーイング738-800型機で、機体番号はB-6068である。2019年1月10日に初飛行に成功した。

機体のデザインは貴州の伝統文化である「ろうけつ染め」の要素を再発現した。ろうけつ染めによく見られる青と白を基調としている。さらに三つの藍に細分化され、濃淡が重なり合う山々が重なり合う貴州地域の姿を形成している。同時に貴州省の景勝地：黄果树滝、梵浄山をイラストで表現している。現在、貴州航空機はすでに通常運航しており、主に貴陽から北京、上海、広州などのハブ空港へのフライトを実施し、貴州の宣伝を支援している。

第2項 大学での伝統技法ワークショップ 背景紹介：

地域文化：貴州で少数民族が最も多く、代表的な地域が黔东南ミャオ族侗族自治州である。筆者は2018年から黔东南州のろう染め文化を代表する地域(丹寨県、台江県、雷山県、剣河県)に現地調査を行っている。その地域の問題点については、若者は農業より出稼ぎに憧れを持つので、若くて体力のある男性は出稼ぎで都市部に行き、ミャオ族の女性たちが置き去りにされていること、この女性たちは子どもの頃からの民族的な習慣で学校に行かず、母親にろうけつ染めを習っていたことが明らかになった¹⁷。その女性たちはろうけつ染めの腕がすばらしいものの、大した教育を受けていないせいで家族の面倒を見ることしかできなかった。例えば、台江県交宮村の欧さんの取材では、彼女の家族は5人で、家庭の収入はすべて出稼ぎの夫に依存しており、平均月額額は6000元である。欧さんは学歴がないため、家では主に農作業をし、未婚の娘に民族ウエディングドレスを作ったりした。

一方で、地域の人口が減少し、かつての幼稚園や小学校が定員に満たず、廃校を余儀なくされていた。子どもたちは近隣の県にある学校（通常は全寮制）に通い、週末や夏休み・冬休みにだけ家に帰ることになる。その結果、村全体の高齢化が深刻化し、若

い人がいなくなった。取材を受けた欧村民によると、「自分の子供3人も村を離れて県の学校に通っている。今のところ生活は政府の貧困扶助政策のおかげで大きな困難はないが、若者がいないため村全体に活力がなく、毎日話をしたくても相手が見つからず、虚しくなっている」と話していた。

中国第7回全国人口調査によると、黔东南ミャオ族侗族自治州地域の少数民族人口は297万1800人で、州人口の79.01%を占めている。ほとんどの民族村は、上記のような生活状況に直面している。生活面の改善とともに、地域の人々の精神的な豊かさを追求することも必要である。

地域発展ニーズ：2017年に中国共産党中央・国務院弁公庁は「中華優秀伝統文化伝承発展プロジェクトの実施に関する意見¹⁸」を発表した。その中で、中国の優秀な伝統文化を思想・道徳、文化知識、芸術・スポーツ、社会的実践など教育のあらゆる側面に統合することを提案している。学生に伝統文化の重要性を理解し、文化的な自信を高め、文化的な価値の内包を掘り起こす。そのため、大学では伝統文化の振興が図られ、関連する伝統文化知識に関する授業が導入されるようになった。

貴州少数民族の文化的特色は、彼らの地域性知識と伝統技術に集中して現れている。しかし、過去の民族的慣習や生活環境の制約で、こうした重要な文化知識は書面の記載が不足していて、ほとんどが地元の人からの口伝で伝わる。そのため、貴州地域では伝統文化の知識を広めるのが難しいという問題がある。

プロジェクト概要：

貴州轻工職業技術大学は2016年から貴州少数民族女性たちとの交流を開始し、その中から腕の良い少数民族職人(以下職人と略す)を選抜した。そして2019年には彼女たちを職人先生として大学に招き、伝統技法のワークショップを行っている。活動は選択科目という形で(8:30-12:00、14:00-18:00)、職人先生と担当教員が20-30人の学生を引率して学校の実習室で展開する。活動の期間は伝統技法によって1-3日に分けられる。活動終了後、学生には参加した分の単位が授与される。

学校は職人に授業時間に応じて給与を支払う。例えば、技能証明書を持つ職人には1コマ/500元に応じて、8コマ/1日の活動が1日であれば4000元の授業料を受けることができる。少数民族の女性に柔軟な雇用環境と一定の生活保障を提供する。また、活動は授業をコミュニケーションの空間として活用し、

地域の少数民族女性たちが若者と交流する機会をサポートしている。

活動内容は2019年11月の例を挙げると以下の通りである。11月19日から21日までの3日間、ろうけつ染め伝承者の楊志小先生を招き、ろうけつ染めワークショップが行われた。初日はろうけつ染めの柄を描く練習を行った。2日目は布地の藍染技法を行った。3日目は、脱蠟の実演を行った。3日間を通じて、30人の学生は先生の引率の下で自分のろうけつ染めマフラーを作り、見事にろうけつ染め体験活動を終えた。

第3章 触媒としてのデザインの検証

第1節 プロジェクトの検証

上記2つのプロジェクトは、デザインを通じて、地域文化と地域発展のニーズの相互作用を促進することを目的としている。それぞれ異なるデザインを使い、前者は視覚的なプレゼンテーション、後者はコミュニケーションイベントの企画である。2つのプロジェクトの後続調査・インタビューにより、触媒としてのデザインの影響を検証していこう。

第1項 地域イメージの変革を促す

触媒としてのデザインによって、外地人がこれまで貴州に抱いていた貧困のイメージを変えることを促す。前文にも説明したが、貴州はその歴史的経緯で、他の省から見ると、貧困・僻地・孤立といったネガティブなキーワードで連想されることが多い。

「天に三日の晴れ無し、地に三里の平地無し、人は三分の銀も無し」、「蛮地」ということわざは、貴州を先入観で否定的にとらえている人が多い。このようなイメージは、貴州省について各地の人々に誤解を与えるだけでなく、貴州人の地域文化に対するアイデンティティ意識にも一定の影響を与え、地域に対する自信や存在感を欠くようにさせている。以上の問題に直面した中国伝媒大学広告研究所は、次のように指摘している。

人の問題は、発展のダイナミズムを根本的に決定する。したがって、貴州の発展は建築設備のアップグレードや地域資源の活用を実現することだけではなく、より重要なことは、貴州人も外地人も、貴州に対する固定観念にとらわれることなく、貴州の魅力を再認識することであると言えるだろう。貴州省のイメージ改革を行うことで、貴州内外の資源を働かせる。人材、技術、資本などの資源を貴州省に導入する。貴

州と貴州の人々に新たな活力をもたらす¹⁹。(筆者訳)

例えば「貴州号」機体外見デザイン。人々が日常的に利用する飛行機の外観を変えることで、各地の人々が貴州地域の新しいイメージについて議論を展開する。初飛行の際、「貴州号」は多くのメディアプラットフォームや貴州の各地方広報部門に報道された。中国新聞網、中国日報網、新浪財經、動静貴州、多彩貴州網などのメディアは報道の際、「この航空機が中国で初めてろうけつ染め風に塗装され、貴州の新しい名刺になる。」ということを強調した²⁰。現在貴州号は貴陽から北京、上海、広州など中国の一線都市のハブ空港への航空便を主に運航し、貴州の観光資源の宣伝を支援している。

同時にますます多くの人々が貴州資源、特に山岳環境や少数民族文化についての議論に焦点を当てている。そのため、地元の人たちの間では、地域への帰属意識と誇りが高まっている。例えば「動静貴州」WeChat 公式メッセージ欄には、外地人のネットユーザーから「貴州にはこれほど多くの観光スポットがあることを知らなかった。機会があれば実際に行ってみたい。」というコメントが寄せられた。貴州地元のネットユーザーの一部が「貴州ろうけつ染め文化がこんなに多くの人に認められ、愛されるとは思わなかった。これは貴州人の誇りと思う。」とコメントしている。また、他の省で働く貴州人の中には、「飛行機が郷愁を誘ったので、次回は貴州で帰りたい。」と言っている人もいる²¹。

触媒としての機体外見デザインによって、貴州の観光資源が注目されるようになった。多彩貴州網の報道によると、2021年に携程網が発表した「2021年国慶節休暇旅行総括報告」で、貴州省貴陽市は「自働車運転者に人気のある目的地」トップ10に掲載された²²。上海、重慶、成都、広州、北京などの中国一線都市からの観光客が主体となっている。選ばれたツールは貴州山地の特色ある観光地や少数民族の村だった。統計によると、受け入れた観光客数は4,708万人、観光収入は314億元に達した。

一方で、貴州のろうけつ染め文化が注目されるようになり、他産業が貴州のろうけつ染め文化と連携したデザインプロジェクトを展開しようとするきっかけにもなっている。例えば、2020年2月のロンドン・ファッションウィークでは、初の「チャイナナイト」をテーマにしたファッションショーが行われ、デザイナーの成昊が貴州省黔东南地域の「寧航ろうけつ染め工房」とコラボしてろうけつ染めファッ

ョンを発表した²³。貴州の伝統的なろうけつ染めの模様と現代の仕立て技術を組み合わせ、ろうけつ染めの服を日常生活で着用できるドレスに変えてみせた。

また、2021年11月にはスターバックスが貴州省黔东南丹寨蠟染工場と協力した。ろうけつ染めの要素を商品デザインや空間デザインに導入して、北京で中国初の「伝統文化体験ショップ」を立ち上げた²⁴。店内のカフェカウンターが注目されている。それは7人の職人が15日間かけて完成させたろうけつ染めの作品である。「北京胡同」と題されたこの作品は、縦7.2メートル、横2.2メートルで、北京の胡同の風景が描かれている。スターバックスの伝統文化体験ショップによる、伝統的な地域文化の復興に多くの人が関心を持つようになった。

このように、デザインは地域のイメージを変える触媒の役割を担っている。地域イメージの変革は、貴州省と他の省の交流が促進された。他の省の発展資源や機会を貴州に引き入れるだけでなく、貴州の文化資源が貴州の外に出る機会も提供している。

第2項 個人の価値を見直すことを促す

触媒としてのデザインによって、地域の人々が自分たちの価値を発見して、個人のウェルビーイングの状態を実現させる。渡邊淳司とドミニク・チェンは、ウェルビーイングの実現条件について次のように定義している。

ポジティブ心理学の普及に大きな役割を担ったマーティン・セリグマンは、「PERMA理論」を提唱した。これは、ポジティブ感情であること、何かに没頭していること、周囲と良い関係性をもつこと、意義を感じることで達成感をもつことの5つをバランスよく満たすことがウェルビーイングの実現に必要なとする理論だ²⁵。

前文にも説明したが、少数民族の女性職人たちはろうけつ染めの腕がすばらしいものの、大した教育を受けていないせいで家族の面倒を見ることしかできなかった。しかし、子どもたちは近隣の県にある学校に通い、夫も出稼ぎに出てくるため、村には次第に話し相手がいなくなり、生活は虚しい状態に陥ってしまう。このネガティブな状態を改善するために、ウェルビーイングの状態に至れる触媒を見つけることは必要がある。

例えば上記のろうけつ染め活動は、デザインを通じて、職人を村から学校へと導き、外部と交流できる空間を設けた。このワークショップ活動は、職人たちは現在の国の政策に対する理解を促進するものである。国は、中国の優秀な伝統文化を大学教育に導入し、文化の継承を実現することを提案しているが、民族の伝統技術は伝達の特異性のため、主に職人の実践活動を通じてしか伝えることができない。伝統技術を身につけた職人たちは、現在伝統文化発展に貴重な人材であった。職人は学生にろうけつ染めの技術を教える過程で、社会が自分に求めていることを感じ、さらに自分の価値と伝統文化を受け継ぐ使命感を発見する。最終的には、自分のウェルビーイングの状態を見つけられる。

職人はろうけつ染め活動の中で、先生の立場で学生と交流し、また学生はろうけつ染め技術の複雑さを体験することで、職人の技術に敬意を抱くようになる。2019級室内デザインクラスの鄭さんは、「職人先生が蠟の描き方を実演しているときにとても感動した。せっかくの機会なので、もっと職人先生に教えてもらいたい。」と話していた。役割が変わったことで、職人たちは自分の価値を再発見する。職人の楊さんは、「大学にも行ったことがないのに、先生として自分の技術で大学生に教えることができるのはとてもうれしい。」と話していた²⁶。この活動を通じて、職人は自分のウェルビーイング状態を見つけ、今でも学校と密接に連携を維持している。平均して年に1回、交流ワークショップ活動が行なっている。

第3項 地域の更なる発展のきっかけが生じること

触媒としてのデザインによって、職人が伝統的な技術を新しい雇用の経路に転換することを促進し、地域住民の経済的収入を増加させることに役立ちである。劉曉山は『中国公共関係発展報告 2020』の中で次のように指摘している。

地域に伝統文化工房を展開することは、優れた伝統文化資源を効果的に産業化し、地域の貧困対策とするより有利な方法である²⁷。

例えば、前述のろうけつ染めワークショップは少数民族の女性に新たな雇用を提供した。出稼ぎよりも時給収入が高いため、自分の技法で生活環境を変えられることを実感し、廃れた技法を拾い直す職人が増えた。さらに、政府の援助の下で、一部の地元の人々は自分のろうけつ染め工芸品を生産して販売す

る工房を設立した。体力で収入を得ていた彼女たちのやり方を変え、手工芸品を作ってネットで販売し、家計を補おうとしている。2020 年末までに、中国の貧困県に伝統文化工房が計 1000 カ所設立された。そのうち、黔东南ミャオ族侗族自治州は 83 カ所で貴州省（173 カ所）の 48%を占め、最も件数の多い地域となった²⁸。

伝統文化工房の出現は、地元住民に新たな交流空間を提供し、地元の人に再び伝統技法を学ばせる。職人の指導下で、伝統技法を身につけ、経済収入も増やせる。伝統的な文化工房は文化資源を貧困から抜け出す新産業に転化させる。例えば、貴州省の 2020 年伝統文化工房に選ばれた黔东南州丹寨県国春銀飾有限責任会社は、2019 年の売上高が 1800 万円を超え、伝統技術を学んだ人数は累計 135 人、地元の 316 人に就職させ、1 人当たりの年収が 2 万円を増加した²⁹。

このように、触媒としてのデザインは単に地元住民の伝統的な文化資源に対する重視度に影響を与えるだけでなく、文化資源を生かして地域の更なる発展のきっかけが生じる産業を促される。

第 2 節 次回の課題

以上のように、地域活性化の触媒としてのデザインの応用の可能性を、貴州省の 2 つのデザインプロジェクトの事例を通して検討した。建築や産業を利用して地域の活性化を図るよりも、デザインは人々の生活や社会に対して様々な相乗効果をもたらして、地域イメージの変革と個人の価値を見直すことを促す。また、地域の更なる発展のきっかけが生じることができる。しかし、まだ実践例が少ないため、地域活性化の触媒となるアイデアを出すためのスタートにすぎない。

実際に貴州省の事例を分析すると、触媒としてのデザインは、地域文化資源に影響を与えるだけでなく、地域の人々や地域ニーズにも連鎖的な影響を与える可能性があることが推測される。デザイン、地域の人々、地域資源、地域ニーズには、相互に良性利発的な関係があるかもしれない。同時に、地域住民を巻き込んだコミュニケーション活動をデザインすることで、バリューチェーンの再構築や地域独自の民族文化の継承、地域住民の共通精神の形成に寄与しているのではないだろうか。これらの問題は、地域活性化の触媒としてのデザインの役割を探る上で無視できないものであり、次回の研究課題としてい。

¹ 『ストップ少子化・地方元気戦略』日本創成会議・人口減少問題検討分科、2014、p. p 6-13。

² 厚生労働省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/backdata/01-01-03-134.html> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

³ 塩見譲『地域活性化と地域経営 (シリーズ自治を創る)』学陽書房、1989 年、p. 253。

⁴ 佐々木雅幸『都市・再生と創造力』大阪市立大学都市研究プラザ、2009 年、p. 1。

⁵ Wayne Attoe, Donn Logan, "American Urban Architecture—Catalysts in the Design of Cities", Univ of California Pr; Reprint, 1992、p. 45。

⁶ Årsberättelsen om framsteg i fysik och kemi [Annual report on progress in physics and chemistry], 1835, p. 245。

⁷ Wayne Attoe, Donn Logan, *op. cit.*, p. 47。

⁸ Wayne Attoe, Donn Logan, *op. cit.*, p. 46。

①新しい要素(触媒)が導入されると、その地域の既存の要素に変化を与える反応が起こること。触媒は経済的なものと考えられがちだが(投資によって投資が生まれる)、社会的、法律的、政治的、建築的なものもある。②既存の価値ある都市の要素が、前向きに強化または変換される。新しいものは古いものを消し去ったり、価値を下げたりする必要はなく、それを再生させることができる。③触媒反応は、周囲の環境を壊さないようにコントロールされている。触媒力を放つだけではなく、反応効果をコントロールする必要があるのだ。④触媒反応を適切に予測できるように、必要な要素を理解した上で受け入れなければいけない。そして、都市はそれぞれ異なるので、都市デザインは一律に考えることはできない。⑤すべての触媒反応の化学反応はあらかじめ決まっているわけではなく、すべての状況に対して単一の式を指定することはできない。⑥触媒設計は戦略的なものである。都市変革は、単純な介入から生まれるのではなく、将来の都市形態に影響を与えるために、慎重に段階を踏んで計算することから生まれるものである。(都市触媒に成功の秘訣はないが、あらゆる触媒的反応には戦略的な方法が必要である)。⑦触媒反応の目的では、その要素の総和を超えた反応、つまり孤立した断片ではなく、全体としての都市を想像させるような総和を生み出すことである。⑧触媒は反応の過程で消費される必要はなく、識別可能であり続けることができる。より大きな全体の一部となれば、そのアイデンティティを失う必要はない。

(多くの住宅所有者、居住者、建築家といった個人の存在が、街を豊かにしていくのである。)(筆者訳)

⁹ 矢萩喜徳郎『建築 触媒 身体』エクスナレッジ出版、2006 年、p. 11。

¹⁰ マイケル・アルホフ『現代デザイン事典:変容をつづけるデザインの諸相』栄久庵祥二編 鹿島出版会、2012 年、p. 244。

¹¹ マイケル・アルホフ前掲書、p. 256。

¹² 百度百科 HP

<https://baike.baidu.com/item/美丽乡村/1644191?fr=aladdin> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

¹³ 銅仁市郷村振興局 HP

http://fpb.trs.gov.cn/xwzx/fpyw/202111/t20211130_71847513.html (2022 年 7 月 1 日閲覧)

¹⁴ これに関連する先行研究のなかで、藤田香氏らは、経済方面から貴州省の伝統文化を生かしたソーシャルビジネスモデルを提案している(藤田香、大塚健司、山田七絵、松永光平「地域資源をいかした持続可能なコミュニティ構築のための都市・農村間連携: 中国貴州省の少数民族地域における 2017 年・2018 年調査から」『近畿大学総合社会学部紀要』近畿大学総合社会学部、2020 年、p. p 39-69。)しかし、伝統文化は、デザイン活動を経ることで、より効果的に地域活性化の触媒要素となることができるようになる。そのため本稿では筆者は伝統文化の要素をデザインに用いた地域活性化の方法を考察する。

¹⁵ 方李莉『西部人文資源論壇文集』学苑出版社、2010 年、p. 145。

¹⁶ 岳振「招商引资逆勢而上助力經濟增長訪貴州省投資促進局局長季泓」当代貴州出版、2015 年、p. p 20-21。

¹⁷ 百度百科 HP

[https://baike.baidu.com/item/貴州蜡染/7614799?fr=aladdin#reference-\[3\]-418526-wrap](https://baike.baidu.com/item/貴州蜡染/7614799?fr=aladdin#reference-[3]-418526-wrap) (2022 年 7 月 1 日閲覧)

¹⁸ 揭阳市普宁市文化广电旅游体育局 HP

http://www.puning.gov.cn/jypnwgj/gkmlpt/content/0/499/post_499619.html#2622 (2022 年 7 月 1 日閲覧)

¹⁹ 中国传媒大学广告主研究所「形象即战略—多彩贵州品牌发展研究」『中国广告主营销传播趋势报告 No. 8』2015 年、p. 10。

²⁰ 中国新闻网 HP

<https://www.chinanews.com.cn/sh/2019/01-10/8725656.shtml> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

中国日報網 HP

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=16202696666967706481&wfr=spider&for=pc> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

新浪財經 HP

<http://finance.sina.com.cn/roll/2019-01-10/doc-ihqhqcis4954654.shtml?source=cj&dv=1> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

動静貴州 HP

<https://mp.weixin.qq.com/s/CpGXLIRJ7CcsKjyph56gUQ> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

多彩貴州網 HP

<http://www.gog.cn/zonghe/system/2018/11/22/016941344.shtml> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

²¹ 動静貴州 HP

<https://mp.weixin.qq.com/s/CpGXLIRJ7CcsKjyph56gUQ> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

²² 多彩貴州網 HP

<http://news.gog.cn/system/2021/10/09/017995859.shtml> (2022 年 7 月 1 日閲覧)

²³ 光明網 HP

<https://m.gmw.cn/baijia/2020-03/14/1301048702.html> (2022 年 7 月 12 日閲覧)

²⁴ 中国日報網 HP

<http://cn.chinadaily.com.cn/a/202112/27/WS61c95aada3107be4979ff1f6.html> (2022 年 7 月 12 日閲覧)

²⁵ 渡邊淳司、ドミニク・チェン『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために—その思想、実践、技術』ビー・エヌ・エヌ新社、2020 年、p. 34。

²⁶ 2022 年 6 月 24 日—25 日、京都芸術大学研究室にオンラインインタビュー。

²⁷ 劉曉山「2020 年中国文化扶贫公共关系发展报告——“非遗”就业工坊助力脱贫攻坚」『中国公共關係發展報告 2020』2021 年、p. 17。

²⁸ 天眼新聞網 HP

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1669744600094913979&wfr=spider&for=pc> (2022 年 7 月 12 日閲覧)

²⁹ 天眼新聞網 HP

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1669744600094913979&wfr=spider&for=pc> (2022 年 7 月 12 日閲覧)

参考文献

- ¹ 紫牟田伸子、フィルムアート社編集部編『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン：関わり、つくり、巻き込もう』フィルムアート社、2012 年。
- ² 菊地拓児、長津結一郎編『アートプロジェクト：芸術と共創する社会』水曜社、2014 年。
- ³ 矢萩喜従郎『建築 触媒 身体』エクスナレッジ出版、2006 年。
- ⁴ 藤田直哉『地域アート：美学/制度/日本』堀之内出版、2016 年。
- ⁵ 佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也『創造農村：過疎をクリエイティブに生きる戦略』学芸出版社、2014 年。
- ⁶ 濱田琢司『民芸運動と地域文化：民陶産地の文化地理学』思文閣出版、2006 年。
- ⁷ 木下斉『まちづくり幻想 地域再生はなぜこれほど失敗するのか』SBクリエイティブ、2021 年。
- ⁸ 田中淳一『地域の課題を解決するクリエイティブディレクション術』宣伝会議、2022 年。
- ⁹ 山崎亮『コミュニティデザイン—一人がつながるしくみをつくる』学芸出版社、2011 年。
- ¹⁰ 吴嘉振「日本艺术乡建研究及启示」『中国美术学院 PhD dissertation』2020 年 6 月。
- ¹¹ 申红田「触媒视角下大城市中心区轨道交通站域更新策略研究」『天津大学 PhD dissertation』2019 年 11 月、p. 35。
- ¹² 高台泳「地域再生におけるグラフィックアートの意義と可能性に関する調査研究 韓国・釜山の事例を中心に」『芸術工学 2015』神戸芸術工科大学、2015 年 11 月、p. 11。
- ¹³ 黄勇、黄晓「贵州民族特色村寨保护与乡村振兴路径思考」『贵州民族研究 40 卷』2019 年、p. p 52-57。
- ¹⁴ 磯貝政弘「アートプロジェクトと観光、その現状と展望」『跡見学園女子大学観光コミュニティ学部紀要』跡見学園女子大学、2019 年 3 月、p. p 43-52。
- ¹⁵ 方李莉「论艺术介入美丽乡村建设—艺术人类学视角」『民族艺术』2018 年 4 月、p. p 17-28。
- ¹⁶ 刘昂「传统文化的现代重构—山东民间艺术的文化经济价值与产业开发」『艺术百家』2019 年、p. p 66-72。

Design as a Catalyst for Promoting Regional Revitalization

A Case Study on Regional Design in Guizhou Province

HU YIHANG

Regional revitalization is a global problem. In order to improve the phenomenon of declining regional development, many regions have been searching for a sustainable revitalization model which can minimize the damage to the existing environment. At present, the concept of regional revitalization through culture and art has received widespread support. However, no guidelines are provided as to how specifically the arts should play a role in regional revitalization. Therefore, this paper discusses the possibility of design as a concrete method to achieve regional revitalization. This study introduces the concept of "Urban Catalysts" which showed in the late 20th century American urban planning and design. Among them, the catalyst refers to the urban design elements that provide the impetus for urban development. Based on the above concept, this study attempts to verify the role of visual and activity designs as catalysts for community revitalization in promoting the interaction between local resources and community needs. And through the practice of Guizhou Province design case, the impact and significance that design approach to the local revitalization were discussed.

This study first introduces the concept, origin and characteristics of catalyst, and analyzes the meaning of design as a "catalyst". Then through the case study of Guizhou design, this paper selected the author's actual participation in the design of regional revitalization case as object of study, researching the background, content and result of visual design project and activity design project respectively, so as to explore the influence of design on local people, regional resources and regional needs in Guizhou. At last, it summarizes the significance and possibility of design as a catalyst in the regional revitalization of Guizhou and puts forward the problems to be solved in the future.